

ProMED-mail情報 2019年 11月版

ProMED-mail <https://www.promedmail.org/> の記事から、感染症業務関係者の皆さまにピックアップ記事を紹介します。FORTH（厚生労働省検疫所の情報提供サイト <https://www.forth.go.jp/>）に掲載されるものは省略しています。

編集：厚生労働省福岡検疫所

掲載日	表題	概要
30日	肺ペスト 中国	11月27日、中国北部の内モンゴル自治区ウランチャブ市で、新たな肺ペスト症例が確認された。この患者は隔離入院治療され安定した状態である。患者と密接に接触した4人は医学的観察のため隔離されており、発熱などの症状を示していない。ウランチャブ市は、以前、3人の症例が発見されたシリングル地域から500km以上の距離にある。
30日	麻疹 サモア	11月28日、サモア政府は、2,936人の症例、39人の関連死を確認。11月29日現在、3,357症例、44人死亡を確認。患者数は日々増加している。
30日	ラッサ熱（輸入例） オランダ	11月、オランダ人医師2人がシエラレオネのマサング病院で医療行為中に感染。1例目は、11月4日に外科手術で執刀し、11日に倦怠感・頭痛・発熱・下痢・嘔吐・咳症状あり、マラリアや腸チフスを疑われ抗マラリア薬と抗生物質に反応せず。モロッコ経由で20日にオランダに搬送。ロッテルダムのエラスムス大学病院にて確定診断され、23日死亡。2例目は、1例目の医師と同病院で働き、1例目の医師の外科手術に参加。11日に発症し、オランダの病院に隔離され、治療中。
27日	薬剤耐性 インフルエンザA 日本	11月25日、東京大学医科学研究所の研究チームは、抗インフルエンザ薬「ゾフルーザ」の耐性ウイルスは、通常のウイルスと同程度の感染力と症状が出ると発表した。専門家は耐性ウイルスを発症しやすい小児へは慎重に使用すべきと述べている。
27日	梅毒 日本	日本の患者数は2015年2,000人以上、2017年5,500人以上、2018年6,000人以上、2019年は11月13日現在5,703人を記録。国立感染症研究所は、2019年第1週から26週に報告された1,117人の女性患者のうち、106人が妊娠していると報告。2019年10月現在、17例の先天性梅毒症例あり。
23日	重症熱性血小板減少 症行群（SFTS） 日本	マダニが媒介する感染症であるSFTSの今年の患者数は、統計を取り始めた2013年以降、初めて年間100人近くに達した。11月19日現在、96人を記録し、過去最多の2017年の90人を超えた。ウイルスは2011年中国の研究者によって発見され、6日から2週間の潜伏期間の後、発熱・下痢・血便症状がある。致死率は30%、対症療法で治療する。
22日	馬インフルエンザ 米国	10月11日、獣医師はカリフォルニア州ベンチュラ郡で、2頭の馬の検査陽性を確認。初期症状は、1例は咳、発熱、鼻汁症状、もう1例は咳、顎下リンパ節腫大、鼻汁症状があった。ワクチン接種歴は不明。11月15日、ワシントン州スポケーン郡で、2頭が検査陽性。2頭とも咳・発熱・鼻汁の初期症状あり、予防接種歴なし。
21日	重症熱性血小板減少 症行群（SFTS） 台湾	台湾疾病管理局は、同国で初の第1例を発表。患者は北部の70歳男性、最近の海外渡航歴はなく、山岳地帯で活動することが多かった。11月2日、発熱と嘔吐の繰り返しのため診療所を受診、その後、発疹と意識低下により翌3日、病院に入院。デング熱を疑われたが13日SFTS陽性と判定。
18日	腺ペスト 中国	11月17日、内モンゴルで新たに1例の腺ペスト感染例を報告した。12日に北京で確認された2例に続くが、内モンゴル保健委員会はこの2例と結びつく証拠はないと述べた。新たな感染例は55歳男性で、11月5日に野生のウサギの肉を食べている。この患者と密接に接触した28人は隔離され観察中であり、異常な症状は見つかっていない。内モンゴルでは、気候変動による持続的干ばつの後、齧歯類の数が増加している。
9日	アフリカ豚コレラ （ASF） インドネシア	11月8日、農業省は、北スマトラ州で数千頭の豚が死んだことについて、ASFウイルス感染の第1例を確認した。北スマトラ州は、6日、州内で4,000頭の豚が豚コレラによる感染で死んだと公表していたが、検査結果を受け、政府は同州内の防疫体制の強化、死骸処理の徹底を指示した。